

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)						
名 前	アシャリフ・モハマッド・レザー		所 属	工学部 情報工学科	職 名	教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定	業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.40	学部担当科目: DSP, Simulation、先端情報工学概論(1/4)、Frontier Engineering (URSP)に担当教員英語で行う)、Technical English Presentation(技術英語発表)。大学院担当科目: 信号処理論、Technical Reading & Writing、Signal Processing Theory (for special course in English)、Overview of Engineering Program (for special course in English)。博士(後期課程担当科目: 音響信号処理特論(Acoustic Signal Processing)(given in English for Japanese or Foreign students)。	0.40	DSP:前期行いました。Simulation:後期行いました。先端情報工学概論後期行いました。URSEP(Frontier Engineering)後期行いました。大学院担当科目: 信号処理論前期行いました。Technical Reading & Writing (TRW)前期行いました。Overview of Special Program for Engineering:講義担当後期行いました。Signal Processing Theory (for special course in English)後期行いました。博士(後期課程担当科目: 音響信号処理特論(Acoustic Signal Processing)開講なし。Technical English Presentation (技術英語プレゼン):講義担当後期行いました、英語で卒業論文発表しました。		
研究	0.20	Varios kind of researches mostly related to Speech & Image & Digital Signal Processing are under consideration such as: Data Mining, Particle filtering, Blind Component Processing, Water Marking, Non-Linear Echo Cancelling, Uncover News Dynamic by PCA, Stock Pricing Model, Semantic and Spatial-Temporal Clustering of Self-Organizing Map, Image Seamcarving, Image Discrimination by SVM, Wireless Tele-Control System Considering Equalization. In my lab. last year, we published many papers and attending many conferences. In coming year we will also consider to present in ITC-CSCC 2014, WorldComp' 14 Las Vegas, SIP 2014, Kyoto and Joint Conference of the IEEJ and IEICE2014. Also, we plan to publish one or two journal papers.	0.20	左題名の研究について昨年学術論文(paper): 6件、国際学会3件、国内学会3件(計12)掲載と発表しました。Chungbuk National University in Korea 研究交流(何件論文)、Collaboration with Prof. Heung Gyoon Ryuも行いました。他にテヘラン大学と大阪府立大学共同研究進み、何件論文を書きました。		
社会貢献	0.10	As a foreigner professor, I would like to involve in more international activities in University of the Ryukyus. Collaboration of various researches based on the agreement between University of the Ryukyus and University of Tehran (Faculty of Engineering) and to sustain it for 16 years now. In March 2014, I invited Prof. Moradi of Tehran University (Advanced Robotics and Intelligent Systems Laboratory School of Electrical and Computer Eng.) to give lectures in Feature Extraction and Selection: Application in Screening Autism & Human Inspired Robot Design: The Pole Climbing and Dome Walking Robots through International budget. In April 2014, I organized two lectures by Prof. Yen Wei Chen of Ritsumeikan University & Dr. Xiong Wei: Head of Knowledge-Assisted Vision Laboratory, Institute for Infocomm Research (I2R), A*STAR, Singapore to give lecture in Computational Anatomy: Towards Automatic Understating of Human Anatomy & Intelligent Vision for Automatic Microscopy: Modeling, Segmentation and Classification. This year I'll plan to invite another professor from Tehran University. Also, I'm serving as an Overseas Technichal Program Committee (TPC) of International Symposium on Telecommunication held in September 2014.	0.10	昨年下記3件講演会行いました。I invited Prof. Moradi of Tehran University (Advanced Robotics and Intelligent Systems Laboratory School of Electrical and Computer Eng.) to give lectures in Feature Extraction and Selection: Application in Screening Autism & Human Inspired Robot Design: The Pole Climbing and Dome Walking Robots through International budget (2014/3/10-15). On 17th April 2014, I organized two lectures by Prof. Yen Wei Chen of Ritsumeikan University & Dr. Xiong Wei: Head of Knowledge-Assisted Vision Laboratory, Institute for Infocomm Research (I2R), A*STAR, Singapore to give lecture in Computational Anatomy: Towards Automatic Understating of Human Anatomy & Intelligent Vision for Automatic Microscopy: Modeling, Segmentation and Classification. From 2015/2/22 to 2015/2/28, I invited Prof. Babak Araabi of Tehran University, Computational Modeling and Machine Learning Lab., School of Electrical and Computer Eng. to give lecture in "On Hand-writing Recognition: A writer-dependent contour-based approach" through International budget and partially my budget. Also, I'm serving as an Overseas Technichal Program Committee (TPC) of International Symposium on Telecommunication (IST) held in September 2014, Iran. I introduced Prof. Wada as the Keynote speaker from University of the Ryukyus.		
管理運営	0.20	今年情報工学科専攻主任、国際交流委員会委員(Member of Avisory of Forein Students)、学生交流専門委員会委員、特別コース運営委員会委員などの委員会活動に積極的に参加する予定。その他、研究推進委員会委員もやっております。	0.20	情報工学科専攻主任、国際交流委員会委員、学生交流専門委員会委員、特別コース運営委員会委員、研究推進委員会委員などの委員会活動に積極的に参加しました。		
進路指導	0.10	卒業生3人、修士2人(一人私費留学生)、博士2人	0.10	卒業生1人卒業し、修士課程進学しました。修士2人(一人私費留学生)。博士2人、一人Carlos Enrique Gutierrezさんは博士課程を修了しました。Carlosさんは業績よくて、研究課長賞を取りました。Carlosさんは今度OIST 沖縄大学院大学PostDocの研究員採択になりました。		
	0.00		0.00			
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。	1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。			<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)							
名 前		玉城 史朗	所 属		工学部・情報工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.25	情報工学科基礎教育科目である「情報数学I,II」の講義について、学生に、より理解を深めさせるため、講義・演習を含めた教科書を執筆する。そして、学生からのフィードバックを反映させて、充実した講義になるよう努力を行う。その他、学生の目的意識を高めるための講義を行う。		0.25	情報数学I,IIの講義については、非常に好評であったと思う。そのエビデンスとして、出席率が常に95%以上であり、学生の講義に対する反応も際立っていた。しかし、演習をさらに充実させることを痛感した。その対策として、webclassにアップした問題を紙媒体で提出させるなど、懇切な指導を心掛けた。		
研究	0.35	現在、科学研究費による課題が2年目となっている。この途中成果として、学会誌3編、また、国際会議3編を予定している。さらに、家畜感染症の研究指導を行っており、研究員が今年度9月に学位を取得することを大きな研究指導目的としている。また、共同研究としては、1)Weather News社とのゲリラ降雨予測、2)レキオパワー社との小型風車の共同開発を予定している。トータルとして学会誌8編、国際会議5件の公表を目標とする。		0.30	科学研究費課題2年目で、論文5編、学会発表5件の実績を上げた。その他、指導している社会人が博士学位を取得した。その結果として、学会誌6編、国際会議3編が業績として残った。また、以前に修了した博士研究員生との共著で学会発表2件、その他、民間との共同研究を新たに2件進行している。		
社会貢献	0.15	家畜感染症(豚下痢、鳥インフルエンザ、山羊関節炎)に関する研究を通して、県内畜産農家に感染症防疫システムの提言を積極的に行う。また、冷熱を用いた魚類の陸上養殖と自然エネルギーの地産地消を推進するために、中城村とタイアップしたプロジェクトを行う予定である。		0.15	今回特記すべき事項は、学生のインターンシップの一環として、県内7大学の20名の学生を「社長弟子入りツアー」として1週間の研修の引率で学生指導を行ったことである。その中で琉大生は7名(情報工学科5名、他2名)で、本学学生の間力が評価された。また、ミャンマー連邦共和国ヤンゴンコンピュータ大学との学術交流協定を締結し、当地を2回訪問し、その結果、来年度より、博士課程学生1名を迎え入れることができた。		
管理運営	0.15	昨年、大病を患ったため学科における様々な委員会を免除していただいた。体調は徐々に回復したため、体調管理に努め、まず、無理のない範囲で学科・学部運営管理を積極的に行っていく。学科内では専攻主任補助、また、国際交流の一環として、ミャンマーの大学との交流事業に携わる。また、学部研究推進委員として、特に、若手の研究活動支援を積極的に進めていく。		0.15	学科の委員としては、研究推進委員として参画させていただいた。自らの病と親の介護がかさなり、学科への貢献度が小さいことが反省点としてあげられる。その中で特筆することは、研究担当理事からの指名で本学の安全保障マネージャーに任命され、今年度からその制度を充実させていった。		
進路指導	0.10	学生の進路指導は、これまで以上に行っていきたい。また、三年次指導教員として、キャリア形成の一助となる「産業社会学原論I, II」を通じて、原在指導しているクラスの進路指導を積極的に行う。		0.10	学生インターンシップの指導は、企業、省庁、県とタイアップして積極的に導入している。また、三年次指導教員として、インターンシップの引率を行ったことは、学生にとっても私にとっても有意義であった。また、県内大学連合インターンシップの委員としての活動を行うこともできた。		
	0.00	その他、特記事項はなし。		0.05	大学内の雑草の駆除、及び、栽植活動として、在来種の芝を植える実験をエコキャンパス委員会(学生主導)で行った。この輪を将来的に広げていき、本学の美化活動の一環としていきたい。		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		名嘉村 盛和		所 属		工学部 情報工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	専門教育はJABEE基準の講義を行う。アルゴリズム論、並列分散処理では、プログラミング能力向上に資する内容にする。モデリングと設計では、PBLの教育効果があげられるような工夫を行う。卒業研究、セミナーでは学習教育目標を高いレベルで達成できるよう細かい指導を行う。enPiTと連携して大学院の実践系授業を実施する。				0.30	専門教育においてJABEE基準の講義(教育内容および達成度評価)を行った。モデリングと設計では、外部講師と学生をつなぐ勉強会、およびIT企業経営者の講演会を取り入れ自律的な技術者の育成につながるような工夫を行った。卒業研究では個別指導の回数を増やし従来より細かい指導を行うことができた。大学院教育ではenPiTと連携して高度な実践教育を実施した。				
研究	0.30	最適化計算およびその並列処理に関する研究を引き続き推進する。またバイオ情報処理等、学際的なテーマに積極的に挑戦する。研究成果はできるだけ論文誌、国際会議、国内研究会で報告する。学会活動として電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員として当該分野の研究を推進する。				0.25	国際会議5件発表、ジャーナル2件が現在査読中となっている。電子情報通信学会システム数理とその応用研究専門委員としてジャーナル特集号のゲストエディターを担当した。				
社会貢献	0.15	沖縄県情報通信産業の発展に向けて努力する。人材育成にかかる沖縄県、民間の取り組みに積極的に参加する。				0.10	沖縄県情報通信産業関連事業に関わる委員会等において、沖縄県内の情報通信産業の諸課題に対して意見を述べた。ETロボコン運営委員、沖縄地区審査委員長の役割を通して若手エンジニアの人材育成活動を行った。				
管理運営	0.20	学科入試委員長として、入試関連業務をとりまとめる。				0.25	学科入試委員長として、入試関連業務をとりまとめた。全学ハラスメント防止対策委員会規則改定WGのメンバーとして新しい規則をとりまとめた。全学の「教員組織と教育組織の在り方プロジェクトチーム」に所属し、意見を述べた。				
進路指導	0.05	研究室の学部生、大学院生の進路指導を丁寧に行う。学科相談員として学生が抱える諸問題が改善するように努める。				0.10	研究室の学部生、大学院生の進路指導を行った。全員希望する進路に決定した。次年度進路指導担当として、3年次および修士1年次の進路指導を行った。				
	0.00					0.00					
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		和田 知久	所 属	工学部 情報工学科	職 名	教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果	
教育	0.30	1)担当科目で、JABEE基準並みで実施をする。 2)設計関連講義で、実習を取り入れた実践的内容を実施する。 3)道徳・倫理関連の講義をさらに充実したものにする。 4)教員免許講習他、通常外の講義・教育を積極的に担当する。		0.30	1)から4)の年度目標を達成した。	
研究	0.30	1)大学院学生の国際学会発表を複数名実現する。 2)交流協定を活用し国際研究を活性化し、成果を出す。 3)複数の外部資金を取得する。		0.30	1)目標通り、2件の国際学会発表を実施した。 2)交流協定学校であるハノイ科学技術大学に、沖縄より4名で訪問し、水中超音波通信に関する技術交流会を実施し、次年度に国際共同研究をする予定となった。 3)外部資金としては、総務省系で大型の資金を得て、他2件の寄付金を頂いた。	
社会 貢献	0.15	1)高大連携出前講義等に積極的にかかわる 2)学外講演などを実施する		0.15	1)那覇商業、小禄高校への出前講義を実施した。 2)沖縄統合医療学院での、講義を8コマ実施した。公表で、次年度以降も継続の予定となった。	
管理 運営	0.15	1)学科長の仕事をしながら、少ない会議時間、ITでの効率的運営をめざす。 2)その他学内委員などの責任を忠実に果たす。		0.15	1)基本月2回の学科会議で、なんとか1年間を乗りきれそうである。 多忙な中、SCOPE資金により、新分野である海洋資源開発等に役立つ水中音響通信関連で、国際学会にも複数発表でき、国際交流もできた。	
進路 指導	0.10	1)研究室や周辺学生達の社会性をはぐみながらの進路指導を実施		0.10	1)4年生全員に異なるテーマの卒論を完成させることができた。また修士学生は、ベトナムへの短期留学等を通してやる気をもってもらった。1名進学を除き、全員就職が決定している。	
	0.00			0.00		
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。	
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		岡崎 威生	所 属		工学部 情報工学科	職 名		准教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.30	WebClass活用による学生個別の学習状況提供と、例題や演習を多用して講義方法を改善する。 教職志望学生の社会性と実践能力を養成する。 4年次に対するキャリア設計と創発的活動の向上に取り組む。			0.30	Webclass機能を利用して学生個別の修学レベル提示を逐次行った。例題と演習を多用した授業方法により知識の定着に努めた。ビデオ教材提供は継続して行ない、学生の復習に効果をあげた。教職科目「教職実践演習」を企画・実施し4年次教職志望学生に対する資質検証を図った。4年次に対する卒業後進路指導・相談を行い自己啓発を促進した。		
研究	0.30	大学院学生と共に研究論文を3本以上投稿し採択を目指す。 各種外部資金の獲得に努め、関連企業との共同研究を進める。			0.30	研究論文を3本投稿し2本が査読付き論文誌に採択された。企業との共同研究において、継続テーマに加えて新規テーマを立ち上げ、研究交流を活発化させた。		
社会貢献	0.20	高大連携事業に取り組み、高校生の進学意識向上を支援する。 人材育成事業に参加し、高度職業人養成に貢献する。 学生とともにボランティア活動に取り組む。			0.20	沖縄県立美来工科高等学校との高大連携事業において、教職志望学生による授業実践と高校生インターンシップ支援を行なった。学生と海浜清掃活動を企画実施した。企業からの技術相談にに対し、産学連携の公募案件に1件参画した。デジタルコンテンツ制作人材育成事業へ協力し、県内学生向けセミナーを支援した。		
管理運営	0.10	工学部社会連携委員、学科入試委員と計算機委員などの委員会活動に積極的に参加し、大学運営に貢献する。 教員養成運営委員として教員資質の向上に貢献する。 オンライン授業評価が適切に実施できるよう指導する。			0.10	教員養成運営委員として教員志望学生ポートフォリオ指導や手引き作成を行った。その他全学委員会のIT戦略室員、AO会議企画広報部門委員として各責務を全うした。キャンパス情報システム仕様策定に大学教員センター委員として参画した。工学部社会連携委員として就職説明会や工学部後援会事業の運営を行った。学科オンライン授業評価の実施を指導し全教科で実施した。		
進路指導	0.10	研究室学生に対し個別面談を実施し、企業動向や就職活動の心得等を伝え、就職意識の啓蒙に努める。 4年次学生に対し各自のキャリアパスを意識させ、社会的スキルの獲得を促す。			0.10	研究室学生に対し個人面談を行い、学修状況と進路希望や家庭環境を把握し、修学指導を行なった。4年次に対して面談を通して就学進路希望状況を把握し、社会人スキル獲得のための指導を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。			1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		長山 格		所 属		工学部 情報工学科		職 名		准教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.30	専門科目における学生の実践力向上を図る。データベースの講義では実践力を養うためフリーDBシステムを授業で活用する。数理計画とアルゴリズムでは、数値計算パッケージを用いた大規模計算演習を実施し、学生の応用力・実践力を養う。また、共通教育科目(情報科学演習)についても、新生にわかりやすく、かつ実践的実習を重視した授業を行う。				0.30	講義(データベース)(数理計画とアルゴリズム)では目標通りフリーDBソフトおよび数値計算パッケージを活用した講義を行った。実例に則した課題を多用する課題練習により学生の実践力の養成を図った。また、共通教育科目(情報科学演習)では実用に即した理解しやすい授業に努めたところ、思いがけず学長からProfessor of the Year表彰を受けた。				
研究	0.30	研究成果の査読論文発表を1本以上行うことを目指す。また、口頭発表を数件以上行う。国際会議実行委員として企画運営等を行う。研究分野に関する著書執筆作業を進める。さらに、科研費などの競争的外部資金の獲得を目指す。				0.30	研究成果の査読論文を1本、研究会発表2件、全国大会発表2件を実施した。競争的外部資金として科研費補助金(基盤C)を獲得した。IEEE IJHSP2014のプログラム委員として国際会議の運営に参画した。また、新しい著書の企画執筆作業を進めている。				
社会貢献	0.20	各種学会の実施と運営を行う。日本学術振興会等の委員を務め、学術振興事業への貢献、学会集会の計画・実施、ならびに産学交流と社会貢献を行う。さらに、国際会議等の運営委員を担当する。また、地域貢献への対応として社会人を対象とする公開授業を提供する。高校生を対象とする公開授業の提供も行う。				0.20	電気学会論文査読委員を務めた。日本学術振興会審査委員候補に登録(今年度の科研費審査は担当なし)。IEEE国際会議の投稿論文レフェリーを担当した。また、社会人向け公開授業(マルチメディア情報処理)を提供した。高校生向けにも公開授業(数理計画とアルゴリズム)を提供した。				
管理運営	0.10	大学入学試験委員、学部教授会、研究科委員会、学科委員、学生相談員などの委員会活動およびFD活動に積極的に参加する。				0.10	教授会、学内委員会、FD講演など各種委員会活動に積極的に出席した。また、入試2次試験数学委員を努めた。				
進路指導	0.10	学生の進学・就職・進路指導・相談等を積極的に行う。また、修士および4年生に対してはゼミ・面談等を通じて進路指導・修学指導を多面的に行う。				0.10	学生の進学・就職・進路指導などゼミおよび個別に学生相談を実施した。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	長田 智和		所 属	工学部 情報工学科	
職 名	助教				
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.30	情報工学実験1-2では、実機を用いた基本的なネットワーク構築のスキルを習得させる。同3-4では、学科計算機システム管理を通して、実践的な情報システム構築管理のスキルを習得させる。講義科目「情報ネットワークII」では、情報システム・情報ネットワークへの応用技術について講義する。研究ゼミでは、情報システム・情報ネットワーク技術に関する実践的な研究テーマについて学生に取り組ませる。		0.30	情報工学実験1,2において、実機を用いた基本的なネットワーク構築のスキルを習得させた。同じく3,4においては、学科計算機システム管理を通して、実践的な情報システム構築管理のスキルを習得させた。講義を担当している「情報ネットワーク2」では、あえて教科書は用いず、私のシステム開発・構築運用経験を題材として、情報ネットワーク1との繋がりを意識しながら講義を行った。また、今期も沖縄クロスヘッド社と連携し、同社が提供するクラウドサービスを無償提供して頂く形で講義の演習に活用した。講義開始時の学生の知識が少なく、要所所で復習を多分に入れながらであったが、自己評価で90点の内容だったと思う。研究ゼミでは、沖縄オープンラボのSDN研究活動に大学院生を参画させるなど情報システムおよび情報ネットワーク構築運用技術を実践的に指導した。また、主査として修士学生を指導し、2名の修了生を輩出することができた。
研究	0.30	外部資金獲得を目指し、情報システム・情報ネットワーク技術を活用した、地域における情報サービスの共通基盤(ID連携技術など)構築に関する研究を推進する。その過程において、研究会発表、さらには、成果論文発表(投稿)に向けて開発成果を蓄積する。 (成果目標:査読論文1編以上、口頭発表3件以上)		0.30	指導している研究員及び大学院生と論文投稿及び学会発表に勤しんだ。その結果、研究室全体で、ジャーナル論文投稿2本、学会発表2件の成果が上がった。また、次年度のプロジェクト活動推進に向けて、科研費・若手(B)、及び、民間助成金に応募するなど外部資金獲得活動にも熱心に取り組んだ(現在、結果待ち)。今後も研究プロジェクトを(予算獲得も含めて)積極的に推進し、社会へのアピール活動や成果論文の蓄積など実績を挙げていく。
社会貢献	0.05	沖縄電力主催の青少年科学作品展(H27年1月開催)への出展にむけた企画を立案する。		0.05	沖縄電力主催の青少年科学作品展(H27年2月開催)に9年連続で出展した。今後も引き続き、学校や地域社会への教育や科学技術の理解・普及のための努力を継続していくつもりである。
管理運営	0.30	学科各種委員会の業務を率先してこなし、円滑な学科運営に貢献する。また、学科情報システム担当教員として、昨年度更新された新学科学システムの安定運用及び改善に努める。さらに、全学の情報システム運営委員、セキュリティ運営委員、IT戦略室員としての職務も、自身の専門性を生かして積極的に取り組む。		0.30	学科予算委員として、今年度の学科予算案を作成した。毎年、予算案作成時期が遅れがちであったが、今年度は5月には作成し、教員の予算執行を円滑にすることに貢献したつもりである。また、学科システム運営では、最新のブレードサーバーやネットワーク機器を構築し、その安定運用に努めた。全学委員としては、情報システム運営委員、セキュリティ運営委員、IT戦略室員として、規定の作成等に貢献した。また、次期キャンパス情報システムの仕様策定委員、技術審査委員も担当した。
進路指導	0.05	担当学生が希望する進路(就職・進学等)に進めるよう、積極的にサポートする。特に、就職希望の学生に対しては、就職試験対策(履歴書チェック、面接対策等)を積極的に行う。		0.05	担当研究室の学生が希望する進路(就職・進学等)に進めるよう、積極的にサポートした。特に、就職希望の学生に対しては、就職試験対策(履歴書チェック、面接対策等)を積極的に行った。その結果、就職希望のだったB4:2名,M2:1名とも希望する就職先に内定した。なお、学部生については修士課程へ進学し、十分なスキルアップの上での大手企業への就職を勧めている。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		宮里 智樹	所 属		工学部 情報工学科
			職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	学科担当科目(情報工学実験1、2、3、4)を担当し、エンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行う。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱの適切な実施に向けた支援を行う。		0.20	学科担当科目(情報工学実験1、2、3、4)を担当し、実験2、3においてエンジニアリングデザイン教育の導入を試験的に行った結果、学生の自発的な活動を引き出した。修士の実践演習Ⅰ、Ⅱに関しては、積極的に関わる事ができなかった。次年度はスケジュール管理に配慮し、関わり方を改善したい。
研究	0.25	大学院博士過程の学生と共に研究論文の採択を目指す。外部資金を獲得し、連携企業との共同研究を継続し、実社会に応用出来る技術の研究開発に努める。		0.30	大学院博士過程の学生と共に研究論文を提出すべく現在執筆中であり、できるだけ早く投稿出来るように努めたい。連携企業との共同研究を継続し、実社会に応用出来る技術の研究開発に努めたが、具体的な外部資金獲得には至らなかった。国建システムと名嘉村研究室との共同研究として、沖縄TLOライフスタイルイノベーション創出推進事業に採択され、「電子見守りシステム」を共同で開発した。
社会貢献	0.20	琉球大学における実践的高度IT人材育成事業の定着を目指して、産業技術大学院大学との協定事業を推進する。今年度はenPiTの活動支援を行う予定である。APITT事業の継続に協力する。NPO法人OPSIの理事として、オープンソースの普及に努める。社団法人IIOTの技術委員長として、IIOTの活動を支援する。		0.20	今年度は、社団法人IIOTの技術委員長としてIIOTの事業活動の活性化に貢献した。来年度も引き続き運営サイドからの支援を行いつつ、研究開発の部分でも連携して行きたい。
管理運営	0.30	年次指導教員や、教務委員、計算機実験委員、図書委員などの委員会活動に積極的に参加する。		0.25	年次指導教員や、教務委員、計算機実験委員、図書委員などの委員会活動に積極的に参加した。特に、図書委員での活動では工学部パンフレット、大学パンフレット等における学科取りまとめを行った。2016年度の大学案内パンフレットにおける、教員・卒業生インタビューの調整作業も行った。
進路指導	0.05	3名の卒業研究配属者に対して、就職希望者に対しては早期の就職活動を促し、進学希望者に対しては、進学についてのサポートを行い、円滑に進路決定が行える様に努める。修士1名、博士1名の研究計画の立案をサポートする。		0.05	3名の卒業研究は遺族学生に対して、1名は修士課程への進学を、2名については、沖縄日立ネットワークシステムズ、リュウコムへの就職活動を支援した。修士1名、博士1名については、それぞれ研究活動に対する支援を行った。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	



(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		吉田 たけお	所 属		工学部 情報工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.35	学部担当科目(情報工学実験Ⅰ～Ⅳ)を担当し、JABEEの基準を満たす講義を行う。学生による授業評価アンケートの集計結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行う。			0.35	授業評価アンケート等の結果に基づき、授業内容および補助資料の改善を行った。今後もより一層改善をする必要があるが、今年度の目標は達成したと考える。		
研究	0.30	現在、新たな研究テーマを模索中であるため、まず、新規研究テーマの早期立ち上げを目指す。また、新規研究テーマでの学会発表および研究論文の採択を目指す。外部資金を獲得し、実社会に応用できる技術の研究開発に努める。			0.30	新規研究テーマについては、まだ方向性を検討中であるが、電子情報通信学会の合同講演会において、基礎的な内容に関する学会発表を行った。まだ論文誌への投稿には至っていないが、早急に投稿できるように努める。また外部資金に関しては、残念ながら、今年度は獲得できなかった。		
社会 貢献	0.10	沖縄工業高等専門学校・情報通信工学科4年次に対して通年で開講される科目「情報通信総合演習」を、非常勤講師として担当する。また毎年、沖縄県内で開催されるLSIデザインコンテストの実行委員を務める。			0.10	LSIデザインコンテストについては、現時点で未実施であるが、2015/03/13に実施予定である。なお、非常勤講師については、目標通りに実施した。		
管理 運営	0.15	学部安全衛生委員、学科入試委員、学科計算機実験委員などの委員会活動に積極的に参加する。次年度は新入生の年次指導教員になることが予想されるため、特に、入試委員会の業務(試験監督や採点作業等)に積極的に取り組むよう努める。			0.15	全ての委員会に積極的に参加し、貢献を行った。		
進路 指導	0.10	研究室に所属する学生に対する進路指導に努める。			0.10	研究室に所属する学生に対して、進路指導、修学指導を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		遠藤 聡志	所 属		工学部 情報工学科	職 名		教授
領域	業務 ウエイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウエイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果			
教育	0.35	学部専門:線形代数、ソフトコンピューティング、人工知能、キャリア実践 共通教育:情報科学演習 大学院情報専攻:複雑系工学論 シラバスを活用し、計画的に実施する。Webcassを活用し履修者の理解度を適宜把握しながら講義を進行する。		0.25	各講義をシラバスにそって計画的に実行した。学科経費により3年次むけにTOEFL-ITPを実施した。キャリア実践にビデオ教材を導入し反転学習形式を試行した。5名の卒業研究指導。3名の修士論文指導おこなった。京都大学との合同でデザインスクールを実施した。			
研究	0.35	web miningに関する技術開発、合議アルゴリズムに関する研究、ITSのための情報可視化について研究を行う。 情報処理学会全国大会、FANシンポジウム等で成果公表する。また、ICCMSE2014,IEEEESMC2014国際会議での成果発表を行う。		0.30	ICCMSE2014(アテネ),IEEEESMC2014(サンディエゴ)でAIに関する成果発表を行った。データマイニング、ITSのための情報可視化に関して学生がFANシンポジウムで成果発表を行った。			
社会貢献	0.10	キャリア実践講義を活用した県内高校生と大学生によるキャリア形成支援イベントの企画、実施。アクティブラーニング教材開発支援。 観光とけいざい紙においてITセミナーコラムの執筆		0.10	キャリア実践講義を活用した県内高校生と大学生によるキャリア形成支援イベントの企画、実施を行った。京都大学との合同デザインスクールを実施し、県内高校生を含めたイベントを行った。			
管理運営	0.10	工学部施設委員長としてエコロジカルキャンパスの実施を行う。 学部教務委員、学科教務委員 学科就職担当として就活生への支援および企業対応を行う。		0.25	工学部施設委員長として、新棟什器の調達、エコロジカルキャンパス推進を行った。全学学生生活委員の職務を行った。学部/学科教務委員の職務を行った。その他、総合情報処理センターの依頼により、キャンパス情報システム技術審査委員、情報セキュリティマネジメントシステム内部監査員養成基礎コースの習得。			
進路指導	0.10	学部生5名、M2学生2名、M1学生1名の研究および進路指導。 学科進路担当として学部生および大学院生の就職支援。		0.10	学科及び専攻の就職担当として、学生の進路相談/企業対応を行った。			
	0.00			0.00				
計	1.00	・ウエイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウエイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。			
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。		<input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。		

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前		高良 富夫	所 属		工学部 情報工学科
			職 名		教授
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.20	シラバスに示したとおりの学科の学習教育目標に沿った内容と方法、評価基準・方法により、学部担当科目および大学院科目を担当し、効果的な講義を行う。プロジェクトベース学習を推進する。自分の研究成果を活用してデモを行い、おもしろい講義を進める。全学・学部内FD活動に積極的に参加する。「科学者の倫理」の教育を推進する。		0.20	シラバスに沿った内容と方法、評価基準・方法により、効果的な講義を行った。「プロジェクトデザインI」でプロジェクトベース学習を、「科学者の倫理」でアクティブラーニングを推進した。「認知工学」、「自然言語工学」、「先端情報工学」では自分の研究成果を活用してデモを行い、おもしろい講義を進めた。学習障害関係のFDを学内専門家に依頼し実施した。
研究	0.20	学生と共に研究論文を投稿し採択を目指す。科研費の研究テーマを推進する。国際学会及び国内学会で発表する。他大学と連携した研究を継続する。企業等と連携した研究を行う。		0.20	学生と共に研究論文を国際会議に投稿し採択された。科研費の研究テーマである「言語の獲得モデル」を推進した。スリランカにおける国際学会及び日本音響学会で発表した。茨城大学と連携した研究を継続し研究発表を行った。博物館と連携し音に関する研究を行った。
社会貢献	0.15	県内でのIT関連審議会に参加する。福祉関係の学校の非常勤講師を務める。公開授業を提供する。教員10年研修を提供する。海外の協定校と交流を行う。		0.15	県および総務省のIT関連審議会に委員長として参加した。言語福祉関係の専門学校でデモを用いた講義を行った。公開授業「自然言語工学」を提供した。教員10年研修のための教科書を出版した。ミャンマーに出張しコンピュータ大学と部局間協定を締結した。
管理運営	0.40	工学部長として、工学部の教育、研究、及び社会貢献が効果的に行われるよう、副学部長と協力して精力的に取り組む。また工学部内の融和・協力のための方策を推進する。		0.40	工学部長として、工学部の教育、研究、及び社会貢献が効果的に行われるよう、各担当副学部長と協力して精力的に取り組んだ。また工学部内の融和・協力のための方策としてほぼ毎月「ゆんたく会」を開催し、忘年会も行った。学部長間のネットワークとして「学部長懇談会」を発足させた。
進路指導	0.05	「プロジェクト・デザインI」において、将来の就職を見据えた進路指導を行う。研究室の学生の進学・就職指導を行う。		0.05	「プロジェクト・デザインI」において、将来の就職を見据えた進路指導としてIT現場の外部講師による講話を提供した。研究室の学生の進学・就職指導を行った結果、1名進学、1名公務員合格、2名IT企業入社が決定した。
	0.00			0.00	
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)											
名 前		山田 孝治		所 属		工学部 情報工学科		職 名		教授	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定				業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果				
教育	0.25	資料の充実に加え、学生の実体験向上型の授業に努めたい。今期はプロジェクトデザイン2を初担当する。学部:ソフト演習1, プログラミングII, 情報工学実験3, 4, 情報科学演習, 知能ロボット, 大学院: 知能ロボット論, Intelligent Robotics, 博士後期: 創発知能ロボット工学特論				0.30	授業計画通り開講できた。また、今年度は、大学改善経費より学習サポート経費を取得し、修士を中心とした学習サポートルームを設置し、前期延べ53名、後期73名のサポートを行うことができた。さらに、微分積分学入門1を落とす学生を対象とした集中講義を後期開講した。				
研究	0.30	特別支援教育のための視野状態把握システムの開発などの新領域の開拓。、ロボットシミュレーション, Swarmインテリジェンスシステムをテーマとして学生と発表に努める。秋開催されるインテリジェントシステムシンポジウム2014(FAN2014)にプログラム委員として参加予定。メキシコからの研究生を一人迎える。				0.25	特別支援教育のための視野状態把握システムの開発, ロボットシミュレーション, Swarmインテリジェンスシステムをテーマとして研究を進めた。視野状態把握システムは、支援学校教師, 視能訓練士との会合を2月に行い、好評価を得た。研究成果として5件の国内学会発表を行った。				
社会貢献	0.15	例年行っている小中学生に向けたロボット工作教室を開催する。				0.10	子どもゆめ基金の後期申請が受理され、3月末に子ども向けロボット工作教室を開催する。				
管理運営	0.15	教務委員長, 実験検討委他。それぞれ他の教員を患わせることなく、状況を良くできるように対応する。また、昨年度に引き続き工学部高専連携委員会委員長として、今年度も高専との学生研究発表会を成功させ、高専との共同研究の拡張を進める。				0.20	教務委員長, URGCC委員, 実験検討委, 高専連携委の職務を全うできた。学生研究発表会も例年通り開催でき、多数の参加者を得た。				
進路指導	0.15	卒研配属生に大学院進学を勧める。生徒のコミュニケーション能力の向上を考え対話時間を増やす。				0.15	研究指導に加え、頻繁に食事をいっしょにするなどのコミュニケーションを行い、就職希望者も大学院進学に進路変更し、配属性3名とも進学が決定した。				
	0.00					0.00					
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。</li> <li>・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>				1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。				
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。						<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。					

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)

名 前		赤嶺 有平	所 属		工学部 情報工学科	職 名		助教
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定			業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果		
教育	0.20	実験1, 2におけるプログラミングの講義内容を改善する。実験4, 卒業研究に設計手法, スケジュール管理手法を取り入れる			0.20	実験1, 2についてテキストを全面的に改良した。実験4に, 設計書に基づく実装を取り入れ, webアプリを用いたスケジュール管理を導入した。		
研究	0.50	デマンドバスに関する研究(科学研究費若手研究(B)新規採択課題)及び拡張現実感への適用を目指した物体認識手法の研究(科学研究費基盤(C)新規採択課題(分担者))を進める。			0.50	デマンドバスに関して, ジャーナル1編を投稿し国際会議にて発表した。		
社会 貢献	0.10	観光客に対する交通情報提供手法の研究に関して日本道路交通情報センターとの連携を進める			0.10	外部資金の獲得には至らなかったが, 今後も連携を模索していくことを確認した。		
管理 運営	0.10	自己評価委員会を始めとして, 各種委員会において着実に業務を遂行する。			0.10	自己評価書を執筆をはじめ, 各種委員会の業務を遂行した。		
進路 指導	0.10	研究室及び担当学年に対して適切な進路指導を行う。			0.10	研究室配属の学生は全員進学及び就職した。担当学年の学生に対しては全員に個人面談を実施し進路に対する助言を行った。		
	0.00				0.00			
計	1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比が1.00となるよう, 記入してください。</li> <li>・記入量に応じて, 枠は広げて使用してください。</li> <li>・診療業務に従事している者は, 「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。</li> </ul>			1.00	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェイト比の実績が1.00となるよう, 記入してください。</li> </ul>		
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には, 右記にチェックしてください。					<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。			

(別紙1) 本シートは平成27年5月以降に学内外へ公表されます。

平成26年度 教員活動における年度目標・自己点検結果シート(1枚目)					
名 前	當間 愛晃		所 属	工学部 情報工学科	
職 名			職 名	助教	
領域	業務 ウェイト比 (予定)	平成26年度 年度目標設定		業務 ウェイト比 (実績)	平成26年度 年度末自己点検結果
教育	0.48	(1) 学部担当科目(情報工学実験I/II/III/IV)を担当し、URGCCの基準を満たす実験を行う。 (2) 卒業研究およびセミナーを担当し、研究活性化に結びつくよう学生指導に努める。例年通り、沖縄高専との連携強化に向けた取り組みを検討する。 (3) エンジニアリング教育を踏まえ、実験III/IVのテーマ(データマイニング班)をブラッシュアップする。 (4) 昨年度実施のデザインスクールを踏まえ、山田先生と共にPD2改革に努める。 (5) 2013年度入学の年次指導教員として学生の意欲向上に努める。		0.53	(1)(3)担当科目の評価基準を明示し、達成できるよう指導した。特に実験3,4については昨年度実施した卒業研究インタビューを踏まえ、過去の実験テーマ(進化計算班)実施方法を参考にしつつ、受講人数が倍近くに増えた中でのコードレビュー・開発スタイル指導を実施できるよう、2年目の実験班(データマイニング班)の改善に努めた。 (2) 例年通り学部生向けセミナーを実施し研究活性化を図った。また、沖縄高専との交流研究会を継続実施しており、互いに刺激し合えるよう努めた。なお、調査研究や討論のさせ方に工夫を要する必要性がでてきたため、次年度に向けて準備を進める。 (4) 山田先生と連携し、シラバス作成・授業実施・成果物指導等を行った。 (5) 個人面談・ML・ブログを通して指導に努めた。例外的な指導が必要な際には最大限努力を行った。 (6) 京都大学共同によるデザインスクール実施における現地運営ならびに、沖縄キャリア教育EXPO2014と同時開催のアクティブラーニングメソッド研究会にて概要紹介を行った。デザインスクールについては少なくとも2016年度までは継続実施する予定である。 (7) 学部改組に向けた新カリキュラムにおける新科目検討、既存科目の授業方法刷新について検討を進めた。次年度も続けて既存講義の観察・教科書選定・授業計画検討を実施する。
研究	0.40	(1) 学術会議等イベント参加時の情報整理を兼ねたブログ記事の作成。 (2) 大学院修士課程の学生と共に学会発表を通じた研究活動の公開並びに、研究発展を目指す。 (3) 新しい研究シーズ検討を行い、研究の幅を広げる。 (4) 国際会議への投稿を目指す。		0.35	(1) 研究発表および聴講参加した情報処理学会全国大会、沖縄高専との交流研究会、卒業研究インタビューについて参加記録を整理し、ブログ記事として公開した。 (2) 例年通り一人一回以上の学外発表を行っており、3月の発表を含めて合計4件の学会発表となる予定である。 (3) 日本認知科学会、NIIグランドチャレンジ等の調査を通じた新たな知見を得つつ、シーズ検討を進めている。 (4) 国際会議へは投稿できなかった。情報処理学会へ1件査読付き論文が掲載された。
社会貢献	0.03	(1) 教育研究活動の学外に向けた情報発信。 (2) 社会連携委を通じた交流。		0.03	(1) 学科ブログを通してイベント参加レポートを公開した。 (2) 工業連合会、工学部後援会らと協力の上キャリア形成支援セミナー、就職説明会、離島を中心としたニーズ調査を実施した。
管理運営	0.07	(1) 学科システムの stable な運用管理に努める(計算機実行委・ネットワーク委)。 (2) 各種委員会活動に積極的に参加する。		0.07	(1) サポート的な立場でのトラブル/ヘルプ対応を行った。 (2) 積極的に参加し、オープンキャンパス運営/入試委/社会連携委等の運営業務を行った。
進路指導	0.02	(1) 就職活動の進捗確認を行い、適宜指導する。 (2) 進路指導の観点を加味したブログ記事作成(学生への周知)。 (3) 2013年度学生への目標「目指す丘」探しをサポートする。		0.02	(1) 就職活動中の学生らの進捗確認を行い、エントリーシートの書き方等適宜指導を行った。 (2)(3) 進路相談対応、進学検討者への先輩らとの懇談会マッチング、どのような心構えで修学するかについての記事作成、工学部合同企業説明会の告知等、幅広い観点で学生へ対応した。
	0.00			0.00	
計	1.00	・ウェイト比が1.00となるよう、記入してください。 ・記入量に応じて、枠は広げて使用してください。 ・診療業務に従事している者は、「領域」の空欄に「診療」として年度目標を設定してください。		1.00	・ウェイト比の実績が1.00となるよう、記入してください。
※当該シート(表)の公表に同意しない場合には、右記にチェックしてください。				<input type="checkbox"/> 学外公表に同意しない。 <input type="checkbox"/> 学内公表に同意しない。	